

書名	ここまでわかった飛鳥・藤原京 倭国から日本へ			著者名	豊島 直博／編 木下 正史／編		
出版社	吉川弘文館	ISBN	978-4-642-08298-3	本体価格	¥2,400	発売	2016/7/27
内容	古代史の舞台を解明する発掘が毎日続く飛鳥・藤原の地。その成果は多大で、古代史像を大きく塗り替える新発見や研究・調査も枚挙に遑(いとま)がない。王宮・王都、都市陵墓、寺院、木簡、古代朝鮮の都城など、飛鳥・藤原京に関わるさまざまなテーマを取り上げた日本考古学協会シンポジウム記録を書籍化。これからの課題をわかりやすく整理・展望する。						

書名	ぬりえ 天平文様 うたかた			著者名	藤野 千代／著		
出版社	創元社	ISBN	978-4-422-71215-4	本体価格	¥1,000	発売	2016/7/20
内容	奈良時代から東大寺に残る正倉院。そこには日本の他、はるばるシルクロードを通してペルシャや中国からもたらされた美術工芸品や古文書が多数納められています。その正倉院で1300年間守り伝えられてきた宝物の文様をイラスト化、デザイン化した、美しい塗り絵シリーズの第5弾。ギリシアやエジプトのデザインの面影も垣間見える、願いがこもった愛らしい文様に色を着け、あなただけの万葉の世界をお楽しみください。						

書名	国分寺の誕生 古代日本の国家プロジェクト			著者名	須田 勉／著		
出版社	吉川弘文館	ISBN	978-4-642-05830-8	本体価格	¥1,800	発売	2016/7/20
内容	仏教を中心とする国家構想の核心だった国分僧寺と国分尼寺。往時をしのぶ遺構は少なく謎が多いが、近年の考古学による成果から堂塔の配置が統一的なものでなく、地域情勢との関係の中で建設されたことがわかった。在地社会が国家の企画した国分寺の思想をいかに受け止め造営したのか、建立にいたる政治状況を辿り、諸国国分寺の特徴を解明する。						

書名	遺跡と技術 日本古代の交通・交流・情報 3			著者名	舘野 和己／編 出田 和久／編		
出版社	吉川弘文館	ISBN	978-4-642-01730-5	本体価格	¥5,500	発売	2016/7/15
内容	近年、全国各地で古代の道路・駅家・関・橋・津・烽火などの交通施設に関する遺構が見つかっている。考古学や歴史地理学の調査・研究成果の蓄積から、かつての古代交通のイメージが一新され景観の復原も試みられている。道路や駅家・橋などの交通施設と運搬・航海など交通に関わる技術を取り上げ、古代交通の様相を具体的に描き、その景観を考える。						

書名	<b>古事記 増補新版</b>			著者名	梅原 猛／著		
出版社	学研プラス	ISBN	978-4-05-406475-1	本体価格	¥1,000	発売	2016/7/28
内容	「古事記」の編纂者・稗田阿礼は、藤原不比等だった？ この大胆な仮説を裏付けるべく、梅原猛が初めて『古事記』の現代語訳に挑んだ記念碑的作品。読み続けられてきた名著に、近年の論考「古事記論」を増補した、大きな文字で読みやすい新装版。						

書名	<b>日本書紀 古代史研究の最前線</b>			著者名	洋泉社編集部／編		
出版社	洋泉社	ISBN	978-4-8003-0957-0	本体価格	¥1,600	発売	2016/7/1
内容	最新研究では、日本書紀はどこまでわかっているのか。知っておきたい「論点」を、第一人者がわかりやすく解説！登場する敗者たちを再検証する。『古事記』『万葉集』『六国史』との関係性。						

書名	<b>神武天皇が攻めた「卑弥呼の邪馬台国」は鹿児島にあった！</b>			著者名	加治木 義博／著		
出版社	ロングセラーズ	ISBN	978-4-8454-2386-6	本体価格	¥1,389	発売	2016/7/1
内容	歴史言語学者として古事記、日本書紀、魏志倭人伝等を徹底的に、縦横無尽に読み解いた著者が、卑弥呼や邪馬台国、天照大神をはじめ、古代史の数多くの謎に挑み、驚くべき結論を導いた！渾身の古代史シリーズ第2弾！						

書名	<b>古事記・再発見。 神話に隠された神々の痕跡</b>			著者名	三浦 佑之／著		
出版社	KADOKAWA	ISBN	978-4-04-601681-2	本体価格	¥1,600	発売	2016/7/28
内容	「古事記」に登場する神々はどこからきて、どこへ行ったのか？ なぜ「古事記」に描かれたのか？ その正体は何者なのか？ 日本最古の歴史書に隠された謎に迫る。						